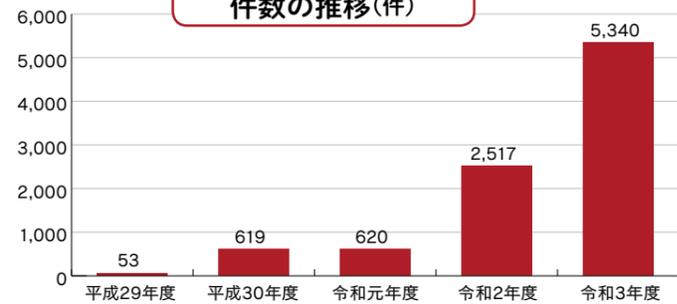


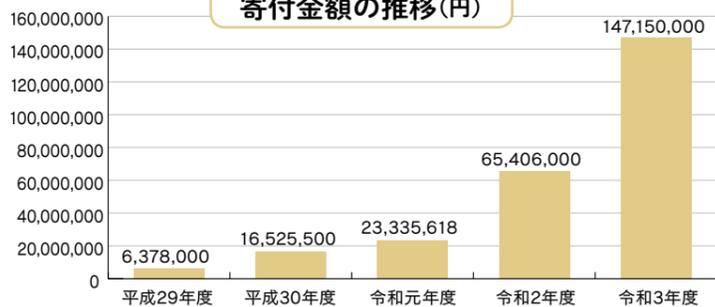
舞鶴市のふるさと納税

本市へのふるさと納税による寄付は年々増えています。昨年度は約1億5千万円の寄付があり、今年度も順調に伸びています。ふるさと納税は、いただいた寄付金を地域振興に役立てるほか、返礼品として送る地場産品の魅力を全国に紹介するツールでもあり、地域経済の活性化につながっています。

件数の推移(件)



寄付金額の推移(円)



きる、面白いものという意味です。でも、ゲームは誰かが仕掛けを作ったものなので、自分の人生には応用が利かない。自分の人生は、自分で切り拓いていかないといけない。でも、それが楽しいんです。そして、自分の好きなことは何なのかを知ることも大事です。私は、子どもの頃から計算することが好きでした。車

のナンバープレートを見て掛け算をしたり、足し算をしたり。人それぞれに好きな分野があると思うので、それを見つけてほしいです。
市長 私も、若い人には自分の得意な分野を話してあげたいです。自分の得意な分野が分かれば、それを仕事に活かすことができます。仕事は、やってみなければわ

からない。仕事にやりがいを感じる人は、仕事に工夫をする人です。仕事が嫌な人は、指示されたことしかしない。面白いと考える人は、工夫する。うまくいったら、もっと工夫しようと考えて。面白い仕事は、モチベーションが上がりますから。
田中 そうですね。そして、それが社会に役立つものにな

るので、それを都会の人たちに知ってほしい。おいしい食材があることが知ってもらえたら、少々高くても都会の人は買ってくれる。良いものは高いということに納得してくれる人が多い。そういう人をターゲットにするのが、地域経済を活性化させると思います。
田中 当社のふるさと納税のメニューにある「美食体験」が、まさにそれです。美食体験は、当社の社員が考えたもので、地方から首都圏の人気のレストランや料亭に食材を送り、そこで調理された料理を味わっていただくものです。レストランのシェフから、舞鶴の食材はおいしいものが幅広くあると高い評価をいただいています。都会にいて、地方の新鮮な食材が味わえる美食体験を利用される人は、まだまだ増えると思います。
市長 本当に良いアイデアですね。舞鶴まで行くのは遠いけれども「食」で興味を持ってもらって、実際に足を運ぶきっかけになることもあります。舞鶴の食材は、自信を持ってお薦めできます。仕事が忙しい中でも、こちらの社員の皆さんは、朗らかですね。笑顔が良いですね。
田中 私が社員に求めることは「笑顔ができる」「礼儀が

整っている」「やる気がある」です。能力が少し弱くても、やる気のある人の方が頑張ってくれます。
市長 笑顔は、大事ですね。私は当初、市役所職員には、野球でいうところの4番バッターばかりに入ってもらおうのが良いと考えていました。でも、それでは「オレに打たせろー」という人ばかりになる。今では、バントが得意な人、盗塁が得意な人、先発完投型の人、リリーフが得意な人、いろんな人を見つけて、適正にあった配置をすることで強いチームができるようになるようになりまし。それぞれ得意技がありますね。
さて、今日は、高専に入られたきっかけや目標を持って前向きに頑張ってもらえたことなどを聞かせていただきました。そのように頑張ってもらえた田中さんの経験から、舞鶴の子ども達が将来自分の目標を実現できるよう、メッセージをいただけませんか。
田中 子どもは、特に男の子は、コンピューターゲームにはまってしまふ時期があります。ゲームは、時間を忘れるほど楽しいですね。私は、人生をゲームと同じように考えています。それくらい熱中



向が決まります。そして、経験を積むことも大事。実は、高専に在学中、他の人とは違う人生を送りたいと考えて、大阪のタレント養成所に通った時期もあります。
市長 現在タレントをしておられないのは、自分には合わなかったのですか。
田中 合わなかったというより、仕事につながらなかったんです。養成所の月謝はかかるのに、仕事がない。大阪に通うのも遠かったですし、成果のないものに投資をすることが、途中から無駄に思えました。でも、夢を持って行動して、門をたたいたことは有意義だったと考えています。学校以外でそのような行動を

したのは初めてでした。この経験で「夢をつかむ人は、門をたたくことができる人」ということを学びました。
市長 高専卒業後は、企業に就職されたんですね。転職もされたと聞きましたが、転職する会社は何を基準に選ばれましたか。
田中 自分の持っている力を生かせる会社であることと、仕事が厳しいことがポイントです。世の中には、仕事が少ない会社もありますが、若い人は最初に厳しい会社を選ばなければなりません。苦しい思いは、最初にやっていただいた方が良いでしょう。「若いうちの苦労は買ってでもしろ」のように。
市長 その厳しい会社での仕事は、やはりつらかったですか。
田中 いいえ、20代は明日の仕事のことを考えると、ワクワクして眠れなかったです。働くことが苦痛ではなかったですね。

市長 活躍している人は、20代に頑張つてこられた人だと思えます。高専で学んだことと違う分野の仕事に就いたり、現在のアイモバイルも全く違うと思いますが、その事業をやるうとしたきっかけは、どんなものでしたか。
田中 ふるさと納税に興味を持ち、制度を調べました。返礼品として野菜や肉が安くという仕組みを知って「これは流行る」と直感しました。寄付をして、肉などの地方の特産物が届くって、すごいな。その頃は、ふるさと納税に関する情報を提供するマーケットもなかったんです。この事業が軌道に乗れば、出身地の京都や他の地方都市の役に立てると考えました。
市長 地方都市の経済活動を活性化するには、人口の多い都市部への通信販売が有効だと思えます。地方都市(田舎)には、おいしいものがある



ので、それを都会の人たちに知ってほしい。おいしい食材があることが知ってもらえたら、少々高くても都会の人は買ってくれる。良いものは高いということに納得してくれる人が多い。そういう人をターゲットにするのが、地域経済を活性化させると思います。
田中 当社のふるさと納税のメニューにある「美食体験」が、まさにそれです。美食体験は、当社の社員が考えたもので、地方から首都圏の人気のレストランや料亭に食材を送り、そこで調理された料理を味わっていただくものです。レストランのシェフから、舞鶴の食材はおいしいものが幅広くあると高い評価をいただいています。都会にいて、地方の新鮮な食材が味わえる美食体験を利用される人は、まだまだ増えると思います。
市長 本当に良いアイデアですね。舞鶴まで行くのは遠いけれども「食」で興味を持ってもらって、実際に足を運ぶきっかけになることもあります。舞鶴の食材は、自信を持ってお薦めできます。仕事が忙しい中でも、こちらの社員の皆さんは、朗らかですね。笑顔が良いですね。
田中 私が社員に求めることは「笑顔ができる」「礼儀が